

## 令和6年度 第2回 川崎市社会教育委員会議 青少年科学館専門部会議事録

日時 令和6年11月13日(水) 14:00～15:20

会場 川崎市青少年科学館(かわさき宙と緑の科学館) 自然学習棟2階学習室

出席者(敬称略)

- (1) 委員 (公募市民) 南條邦子(副部会長)、間渕秀和  
(学識経験者) 佐藤武宏、山岡均、常喜豊  
(家庭教育関係) 眞壁総子(部会長)
- (2) 事務局 久保館長、弘田、高中、清水、渡邊(司会進行)、内藤(記録)、  
齋藤、服部  
上田(生田緑地共同事業体)
- (3) 傍聴者0人

### 1 開会(渡邊)

事務局より開会告知、会議の成立、傍聴者受入(定員5名)、記録(録音及び筆記)作成及び会議記録公開について周知(傍聴者なし)。

### 2 館長挨拶(久保館長)

- ・本日は、大変御多忙の中、令和6年度第2回青少年科学館専門部会に御出席いただきまして、誠にありがとうございます。
- ・本年度第1回の会議を6月28日に開催させていただいたところですが、それ以降、当館においても例年とは違った取組を行ってまいりました。
- ・今年には太陽活動が活発で、5月にはオーロラが日本各地で鑑賞できたと話題になったところですが、当館では毎年秋に、プラネタリウムのドーム壁面でオーロラの写真展を開催しておりますが、この10月には、科学館を飛び出して、川崎駅から徒歩10分ほどのところにごございます川崎市役所本庁舎の会議室をお借りして、出張オーロラ写真展を初めて開催いたしました。
- ・本庁舎ということで市の職員にもアナウンスしたところ、昼休みに鑑賞して、短時間だが楽しめた、有意義な昼休みになったといった声が届いています。
- ・ここ数年、市民とともに実施している夏の星空調査では、初めて報道機関へ情報提供し、新聞にも取り上げていただき、さらに市の職員であれば市内の様々な場所で働き、あるいは居住しているため、庁内システムを使って市の職員にも呼びかけるなどした結果、実は調査期間のほとんどが曇りや雨で観察に適さない条件の中、例年にない数のデータを収集することができました。
- ・10月になって話題になった紫金山・アトラス彗星については、思いのほか見ごろと

なったため、急遽特別観望会を開催したところ、あっというまに定員に達するなど、市民の皆さんの注目度の高さを改めて感じたところです。

- ・館全体としては、本日いらっしゃる際にも目にされたと思いますが、現在、全国都市緑化かわさきフェアを開催中でありまして、ここ生田緑地も会場となっておりますが、既に報道等で御覧いただいた方もいらっしゃるかもしれませんが、11月1日に川崎区で開催された記念式典に、秋篠宮家の次女、佳子内親王殿下が御出席され、式典を終えた佳子さまが、この科学館にも来館されました。
- ・ほとんどお時間のない中、地層の展示を御覧いただいた後は、プラネタリウムを10分程度、お生まれになった日の星空などを交えて御鑑賞いただき、「とても星々が美しく、過ぎた日の星を投影できるなんてすばらしいですね」といった御感想をいただきました。プラネタリウムのコンソールにも大変興味を示されており、今にも操作を始められそうなほどでした。
- ・現在の館の体制は、市民のニーズに的確に、確実に答えていけるほど整っているわけではございません。その中で、第1回専門部会でも申し上げましたが、当館の存在をまだまだ知らない市民も多くいらっしゃる中で、今後もこうした様々な活動を通じて、さらにより多くの方々に親しまれ愛される科学館として、魅力ある科学館づくりを推進してまいりたいと考えております。
- ・本日の主な議題といたしましては、次第にございますように、令和6年度の事業の進捗状況等を御説明させていただく予定となっております。本日の会議においても、委員の皆様から様々な御指導・御助言を賜りますようお願いいたしまして、私の挨拶とさせていただきます。本日はどうぞよろしくお願い申し上げます。

### 3 議題

資料確認（渡邊）

議事進行（眞壁部会長）

次第の3 議題 令和6年度事業実施中間報告について

「令和6年度事業実施中間報告（1）収集保存事業」について事務局より説明

【自然分野】（高中）

収蔵資料の収集・分類・整理（台帳化）では、収蔵庫にある既存の昆虫標本のうち未登録資料の整理・登録（電子台帳化）と新規作製標本を併せて1,000点を目標に進めており、未登録資料の整理・登録（電子台帳化）では、9月末までに208点が登録済である。また、新規作製標本として、9月末までに昆虫626個体を採集し、そのうち223点について標本作製中である。

2のGBIF等国内外機関への資料情報の提供では、「サイエンスミュージアムネット（S-N e t）」「地球規模生物多様性情報機構（GBIF）」への資料データを提供することで国内外への収蔵資料情報を公開している。今年度は、植物標本等、資料1、

150点の提供を予定している。

#### 【天文分野】（弘田）

1のプラネタリウム番組のアーカイブ化については、毎月行っている一般向け番組制作の際に収集した資料、画像、動画等の番組素材やプログラム等のアーカイブ化を行っている。

資料のデータベース化については、他館の事例を調査するなど、今後の構築と公開に向けた検討を行う。

2の天文資料の整理保存については、故富田氏、故箕輪氏から寄贈された天文資料を整理保存し、目録作成を進めている。また、紙資料のデジタル化を行っており、太陽黒点スケッチのデジタル化を行っている。

#### 【科学分野】（清水）

科学実験についての資料収集と保存・管理では、サイエンス教室・サイエンスワークショップ等で提出される計画書・報告書を実践事例集の作成に向けて管理している。また、館内視聴を踏まえ、科学工作を紹介する動画更新のため、市民団体と題材の検討に入っている。

収集保存事業は、以上である。

#### 【質疑応答】

（山岡委員）紙資料のデジタル化はアウトソーシングしているのか、それともインハウスで行っているのか。また、作業の際に気を付けている事、困難なことはあるか。

（弘田）すべて作業は館内で行っている。難点としては、古いものは劣化が顕著である。特に江戸時代の本や昭和初期の冊子は劣化が進み扱いに苦労している。

#### 「令和6年度事業実施中間報告（2）展示事業」について事務局より説明

##### 【自然分野】（高中）

展示事業、自然分野

1の生田緑地の自然情報の発信では、生田緑地における自然について、受付横の生田緑地マップやSNSなどを活用してリアルタイムな情報発信を行っている。生田緑地マップは2週間に1回程度で更新、SNSは9月末時点で24回更新した。

2の新たな自然史資料による常設展示の更新では、生田緑地の四季だより、ピックアップ展示で新たな標本・キャプションによる展示更新を実施していく。9月末時点で、四季だよりを2回更新、ピックアップ展示を6回更新したほか、5月10日の地質の日を記念して、地層剥ぎ取り標本の特別展示を実施した。

### 【天文分野】（弘田）

一般向け投影は職員の自主制作により1か月ごとにテーマを変えて投影している。子ども向け投影はこれまでに制作した番組を約2か月ごとに入れ替えて投影した。

また、今年度中にフュージョン新番組と子ども向け新番組を制作する予定である。

「星空ゆうゆう散歩」は平日午後にシニア向け投影として実施しているもので、元職員の國司眞氏を講師に迎えて毎月開催している。9月までに5回実施し、観覧者数は687人である。

ベビー&キッズアワーは乳幼児とその保護者を対象に月に2回程度実施。9月までに9回開催し、観覧者数は454人である。

学習投影は、小中高等学校それぞれの学習指導要領に沿って投影を行うものである。また幼稚園・保育園等を対象とした投影も実施している。

星空自由空間は平日の一般団体による貸切利用として受入れており、6月に専門学校の交流イベントとしての利用があった。10月には音楽ライブ、11月には聴覚障がい者団体による利用が予定されている。

天文関連展示では、9月から10月にかけてオーロラ上映会に関連してオーロラの写真パネル展を開催した。10月4日から27日に市役所本庁舎でのオーロラ写真展を開催した。また、9月に夏の星に関するミニ展示を実施した。

### 【科学分野】（清水）

市民協働の科学工作展示では、科学実験教室・サイエンスワークショップ等で取り組んだ科学工作物や原理をパネル展示や映像資料として公開するため、科学市民団体と題材を検討中である。

展示事業は、以上である。

### 質疑応答

（間瀬委員）ホームページなどでパネルや展示を見ることができるのか。

（高中）1階の自然展示については展示物一つ一つを見ることは出来ない。

（弘田）2階の天文展示については、今のところホームページ上では公開していない。

（清水）科学分野はホームページでは公開していないが、展示内にARのような形の動画があるが、来館して視聴・閲覧するものである。

（間瀬委員）今後、ホームページ等に展示物を掲載する計画はあるか。

（久保館長）今のところ計画は出来ていない

（山岡委員）星空ゆうゆう散歩が好評のようだが、リピーターが多いのか。

（弘田）大半の方がリピーターのようだ。

（山岡委員）本庁舎のオーロラ展示が好評だったとのことだが、大変だった点や、継続

にあたって改善が必要な点などはあるか。

(弘田) 本庁舎の展示は、昨年度使用したパネル展示を使用したため、最小限の手間で対応できる形で実施した。

(山岡委員) 工夫がされていたという事でいいことだ。

(佐藤委員) 自然について、ピックアップ展示を6回更新したとあるが、具体的に何を挙げたのか。また、展示更新したという情報を何かしら外部に発信したか。

(高中) その季節に合わせた展示と、ワークショップで行ったものを展示用にアレンジして取り扱っている。展示更新の情報発信は科学館のSNSで行っている。

(南條委員) オーロラ写真展について、市庁舎での展示は1階ではない場所で実施したということだが、一般の方は見る機会が無いのではないか。

(弘田) 本庁舎復元棟2階に会議室があり、現在公開できるようになっている。1階には展示可能な場所がないため2階の会議室を使用している。

(南條委員) 情報発信は、どのように実施しているのか。

(弘田) 科学館のSNSや市役所入口のデジタルサイネージなどで発信した。

(南條委員) 今後、来年度に関しても区役所など別の場所で写真展を実施する予定はあるか。

(弘田) 今のところ無い。

(久保館長) 今回使用した205会議室の使い方について現在本庁内で検討中である。今後は文化の発信の場所としていく方向であり、市民ミュージアム等でもミニ展示を実施している。今後、名称を工夫して市民に馴染みやすい場所にしたい。205会議室は旧本庁舎2階、情報プラザや旧市長室の横にあり、25階の展望デッキなどを見た一般の方が、旧市長室や情報プラザに立ち寄った際に、オーロラ写真展もご覧いただける流れになったと考えられる。

情報発信について、本庁舎ではポスター掲示などに制限があった。報道発表を実施し、何紙かに本展示についての記事が掲載された。

### 「令和6年度事業実施中間報告(3) 調査研究事業」について事務局より説明

#### 【自然分野】(高中)

1の市域の生物調査では、種子植物と野鳥は全区で、昆虫とシダ植物は生田緑地を中心として、市域における動植物相解明を進めるための生息種の確認調査を行う。また、生田緑地を中心として植物、野鳥、昆虫はモニタリングが可能な分類群については、生息状況把握のための実態調査を継続している。

2の市民の興味関心を高める調査研究の実施では、外来種のムネアカハラビロカマキリについて、生息状況を確認するために、生田緑地内に3つのルートを設置し、それぞれ週に1度の頻度で調査を実施している。9月末までに各ルート12回、計36回調査し、調査外も含めムネアカハラビロカマキリを61個体、ハラビロカマキリを5個体確

認しており、11月までの結果を整理予定である。また、新たな調査研究の対象として、生田緑地のカメムシ相について記録している。

#### 【天文分野】（弘田）

市民協働による川崎市域の星の見え方調査を夏季にインターネットを通じて実施し、肉眼の調査は昨年度は38件にとどまっていたが、今年度は報道発表で広く市民に呼びかけるとともに川崎市の職員に対しても協力を依頼したところ、期間中好天に恵まれなかったにもかかわらず80件のデータが集まった。冬季はデジタルカメラによる調査を実施予定である。

また、太陽望遠鏡での白色光及びH $\alpha$ 光による観測を随時行っている。今後、土星や木星などの観測を行う予定である。

#### 【科学分野】（清水）

科学の市民の興味関心を高める調査研究では、地層学習のデジタル教材化に向けて、露頭などの画像資料を確認し、一人一台端末の授業活用に向けた地層学習のデジタル教材に関連したプログラムの研究を進めている。

#### 【質疑応答】

（常喜委員）自然に関して、生田緑地の調査で何か面白い発見はあったか。

（高中）当初よりも外来種の本ネアカハラビロカマキリの個体数が減っているようだ。カメムシについては、昨年度採集したものを標本化し、現在、他館の専門家に同定依頼している。

（常喜委員）収集保存について、昆虫標本は高中さんが一人で集められているのか？誰かに協力してもらったりしないのか。

（高中）市域の生物調査では、市民団体に委託していて、主にガの採集が委託内容に含まれる。それ以外の種類の生物については、基本的には一人で行っている。

（山岡委員）市内の星の見え方調査について、今日館に入ってすぐ、目立つように結果を発信しているのが見えてよかった。参加者が結果を見に来ていただける工夫があればよい。

### 「令和6年度事業実施中間報告（4）教育普及事業」について事務局より説明

#### 【自然分野】（高中）

1の生田緑地観察会では、生田緑地の地質、野鳥、植物、昆虫など、四季折々の自然を観察する観察会を市民団体を講師として実施し、9月末までに、8回を開催し、5回を雨天や熱中症回避のため中止とした。

2のサイエンス教室では、バックヤードツアー、学芸員のおしごと体験教室、多摩川

での観察会を含む教室等を計画し、9月末時点で3回実施した。

3の自然サポーター研修会では、自然分野の調査研究等を行う自然サポーターを養成することを目的とした講座を4回連続講座で実施する。研修会は9月末までに2回開催し、10月中に2回開催する。

4の自然観察（地層・林）では、学習支援を目的に、小・中・高等学校の依頼に基づき、生田緑地内の地層の観察会を実施しており、9月末までに1校2回を実施した。また、林の観察会は11月に1校実施予定である。

5の総合的な学習の時間支援では、小・中・高等学校の依頼に基づき、総合的な学習の時間の支援を行う。9月末までに依頼が1件あったが、天候不順のため中止となった。引き続き受付中である。

#### 【天文分野】（弘田）

1のアストロテラス公開事業は、平日昼間にアストロテラスを公開して太陽の観察を行っている。これまで1,157人が参加した。また、月に2回程度、日曜日に「昼間の星を見る会」を開催し、太陽と1等星や惑星などを観察している。天候不良や熱中症の危険のため中止が多く、9月までに2回開催し、98人が参加した。

2のアストロテラス夜間一般公開は、土曜日の夜間、晴天時に天体観察を行うイベントである。9月までに4回実施し、503人が参加した。

3の特別観望会は、珍しくかつ観察しやすい天文現象等を観察するもので、紫金山アストロテラスの特別観望会を10月に開催し53人が参加した。

4のプラネタリウムワークショップは小学生を対象とした年間を通じた12回の連続講座で、プラネタリウムの番組を子どもたちが番組の企画・制作をし、発表会で投影する教室を実施し、12名が参加している。

5のプラネタリウム発表会は日本女子大学附属高等学校と連携し、天文クラブの生徒を対象に、プラネタリウムの番組制作、操作、解説等を実施した。9月に発表会を行い、110人が見学した。

6の天文講演会として、2月に太陽をテーマとして開催を計画している。

7の天文サポーター研修会は、天文事業ボランティアの会合を毎月1回実施し、事業の準備やスキルアップのための研修を行っている。また、今年度後半に新規のサポーターを募集し育成講座を実施予定である。

8のプラネタリウムイベント投影といたしまして、オーロラの上映会を10月に実施予定である。また東京交響楽団の団員によるプラネタリウムコンサートを12月に開催予定である。

9のかわさき星空ウォッチングは、移動天文車アストロカーで市内各地に出向いて行う観察会を9月以降、依頼を受けて実施している。

10の天文分野のサイエンス教室は、アストロテラスの望遠鏡を使った天体観察や日時

計の工作、プラネタリウムのバックヤードツアーなど、9月までに5回実施し、98人の参加があった。

#### 【科学分野】（清水）

1のワクワクドキドキ玉手箱・出前科学実験教室では、小中学校等の依頼に基づき、市民団体を講師として科学教材であるワクワクドキドキ玉手箱を活用して行う科学実験教室を実施している。9月末までに15回、延べ487人が利用した。

2のサイエンス教室（科学分野）では、科学の楽しさに触れられる実験や工作を行う事前申込制の教室として、9月末までに12回実施し、180人が参加した。

3の子どもから大人まで楽しめる当日参加型のイベントであるサイエンスワークショップでは、初歩的な科学講座として簡単な工作や観察・実験を実施している。9月末時点で35回実施し、2,500人が利用した。ワクワクドキドキ玉手箱を活用した科学実験ショーは、11月4日及び、年明け2月24日に開催予定である。

4の第19回かわさきサイエンスチャレンジでは、子どもの科学への関心喚起・促進を目的に、KSP（かながわサイエンスパーク）で8月開催の同イベントに参加し、6つの科学実験工作ブースへの出展協力をした。当日は231人の小学生と209人の保護者の合計440人の利用があった。

5の科学サポーター研修会では、科学実験指導者を養成することを目的とした講座を実施した。館内イベント（サイエンス教室・ワークショップ）での実習を含め全6回の講座を行い、受講者8名が修了した。

6の子ども創意くふう教室では、一人ひとりの創造性を伸ばすことを目的とした連続講座を12月に開始予定である。

7の出前教室は、科学館職員が、実施団体から依頼を受けて自然や科学、天文に関するテーマで行う教室である。現在小中学校からの依頼を受け付け中。

8のゆうゆう広場科学実験教室では、川崎市適応指導教室（ゆうゆう広場）に通う小中学生を対象に、科学館や各ゆうゆう広場にて行う科学実験教室を9月末までで10回実施し、87人の利用があった。

9のかわさきGIGAスクール構想では、学校の理科教育の充実につながるよう端末を活用したデジタル教材の構成を検討している。

#### 【出版事業】（高中）

青少年科学館「紀要」等出版物の刊行では、調査研究等、学芸事業の成果を「紀要第35号」に取りまとめていく。今年度から紙媒体での刊行はせず、PDFファイルを科学館ホームページで公表する。

【質疑応答】

(山岡委員) アストロテラスの公開について、今年は太陽活動が活発であり、ここで太陽を見たいと言って来られる方が多くなったらいと思うが、例年に比べて参加者数が変化したり、太陽を見たいという人が多かったりということはあるか。

(弘田) 特に顕著に多くなった印象はない。

(山岡委員) 「ここに来たら太陽が見られる」という発信をするのも一つ手ではないか。

(山岡委員) 紫金山アトラス彗星の観望会を急遽実施したとのことだが、いつごろ実施を決め、どのように準備・周知したのか。

(弘田) 開催は2～3週間前に決定し、SNSで告知した。観察時間が限られているので、先着50名とした。実際には、100名以上の方が列を作っていたが、それ以降の方はお帰りいただいた。

(山岡委員) 実施当日は肉眼でなんとか見えたと思うので、そのような誘導をしたら待っている人にもよかったのではと思う。

(弘田) お断りした方には、科学館の前でスタッフ数名が「あそこに見えます」等の案内をした。

(山岡委員) 国立天文台ではYouTube配信が10万人を超えた。この天体は近年ない注目のイベントとなってよかった。

(久保館長) 定員は50名。事前の問合せが多く、多数の来館が予想された。当日は16時ごろからの誘導を想定していたが、いつの間にか自然に列ができ、その時点で既に定員オーバーしていた。我々としては見られる人にできるだけ見せたかったが18時台しか見られないので、それ以降で希望の方に、科学館職員が玄関で列整理をするなかで急遽観望会のような形になり、アストロテラスに入れなかった人にもある程度の観望は出来たと思う。

(佐藤委員) 資料に記載されている教育普及事業は、館側で発信したり学びの機会を提供したものであるが、市民からの問合せや質問については、自ら積極的に問い合わせるので学びの密度としては展示を見るよりも濃いものだと思う。そういったものの数等の統計は採っているのか。また、彗星やオーロラなど話題になったものが出ていたが、近年、各地で地震や土砂災害があり、地層についても関心が高いと思うがそういった傾向はあるか。

(高中) レファレンス対応については、毎月、来館・電話・メール等の手段の分類と、植物・昆虫など大まかな分野に分けて集計している。実際にどのような対応したかまでは取っていないが数を集計している。地層については、それほど大きく増えたという印象はない。基本的には季節の生き物についての問い合わせが多い。

(弘田) 天文でも、問合せについて都度記録を残している。

(清水) 科学分野について、レファレンスはあまりない。

#### 「令和6年度事業実施中間報告(5) ネットワーク事業」について事務局より説明

##### 【展示・企画】(清水)

1の環境局企画展では、川崎市が所蔵している写真や映像などから川崎の環境歴史を振り返る展示を行うことを通して、脱炭素社会など未来に向けた行動を考えるきっかけを作る「川崎の発展と環境の歴史を振り返り未来を考える企画展」を環境局地域環境共創課と連携して7月27日から8月25日までの期間で開催した。7,190人の来場者があった。

2のFIELD MUSEUM展では、令和7年1月19日(日)予定の専修大学「FIELD MUSEUM展」に向けて、生田緑地の体験型教材として地層フィールドワークを9月に実施し、当日は49名の学生が参加した。

##### 【調査研究・収集保存】(高中)

調査研究・収集保存分野、川崎市域の生物調査では、「かわさき自然調査団」と共著で調査結果を公表する。また、「神奈川県植物誌調査会」の川崎ブロック事務局として資料の受入、問合せ等に適宜対応する。

##### 【学習支援】(清水)

学習支援1の職場体験・職業インタビューの実施では、市内中学校の職場体験では5月、7月、9月、にそれぞれ1校ずつ受け入れた。9月末までに3回実施し、12人の生徒が参加した。

2の中学校連合文化祭では、10月23日、市内中学生が集まる市中学校理科作品展受賞式及び研究発表会の会場として協力し生徒教職員合わせて114名の参加があった。

3の教員・職員等研修の受入れでは、市内外の小中学校及び理科研究会などの依頼による地層観察や骨パズル、天文の研修会を7月に、横浜国立大学との協働によるCST(コアサイエンスティチャー)養成講座を9月に実施した。

博物館学芸員実習は、8月に実施した。各種研修で延べ61人の参加・受入れを行った。

##### 【地域振興・生田緑地内】(弘田)

1の図書館、区役所等との共催事業は、多摩図書館との共催によるプラネタリウムでの読み聞かせ投影を7月に実施した。また、10月の区民祭では市民によるプラネタリウムの特別投影を実施した。

2の地域の大学、団体等との共催事業は、5月に川崎天文同好会と共催による講演会を開催した。

3の生田緑地ミュージアムは、9月に「お月見フェスタ」を開催し、科学館ではお月見プラネタリウム、民家園と当館学芸員による民家園でのお月見トーク、当館学芸員による屋外ステージでのお月見トークを実施した。

4の生田緑地内施設との共催事業は、「七夕体験」としてプラネタリウムでの七夕投影の実施、民家園での飾りつけ体験などを実施しました。「お月見」のイベントについては3に記載のとおりである。

5の生田緑地内施設及び指定管理者との広報活動の推進、各施設の回遊性の向上では、生田緑地の全体会議や広報担当者会議などへ参加し、生田緑地全体での情報共有や横断的な広報活動を行っている。また、民家園や岡本太郎美術館、藤子・F・不二雄ミュージアム、登戸行政サービスコーナーの5ヶ所でのスタンプラリーの開催や、生田緑地内全体の紹介をするフリーマガジン「もりのにじ」の作成などにより、施設の回遊性の向上を図った。

#### 【質疑応答】

(佐藤委員) 神奈川県植物誌調査会との連携について、(1) 収集保存事業において、昆虫標本を中心に1,000点を目標に資料を登録するとの話だったが、植物誌調査会の資料の受入は、他の資料と同様に博物館資料として登録すると思うが、これは、(1)の収集保存事業において具体的な資料点数が出てくる等、位置付けはあるのか。

(高中) (2) 市域の生物調査「市民団体の委託事業」の中で採集し標本を作成している。最終的な点数は年度末の報告書において数字が明らかになるため(1)では現状記載ない。

(佐藤委員) 最終的に年間の資料の増加数は、(1)と(2)の合算値ということか。

(高中) そうである。

(山岡委員) 七夕お月見の参加者数の推移はどうか。

(弘田) プラネタリウムは毎年満席であり増減はない。

(内藤) 民家園でのお月見トークは、天候に左右されて場所を変更することはあるが、毎年50名前後参加している。

#### 「令和6年度事業実施中間報告(6) 管理運営」について事務局より説明

##### 【管理運営】(渡邊)

1の管理業務は、指定管理者と連携して円滑に運営を行っている。また、生田緑地は緑化フェアの3つある会場の1つとなっていることから、緑化フェアとも協力・連携しながら運営を行っている。

2の危機管理については、職員が毎月分担して館内の定期点検を実施している。また、9月20日に火災発生を想定して、実際に非常放送設備を使用した訓練や消火栓から実際に放水を行う消火訓練を実施した。内容は未定だが、2月又は3月に防災訓練を予定

している。

3の進行管理については、専門部会での御指導や御助言、事業評価などを踏まえ事業計画を策定し、より適切な事業内容や実施方法などについて検討しながら事業を行っている。

#### 【科学館の魅力を高めるサービス】（渡邊）

1の広報計画については、隔月発行の科学館だよりや季節ごとに発行しているプラネタリウムリーフレット、ホームページやSNSなどによる情報発信を積極的に行っておりXのフォロワーについては、4月1日時点で5,322人、10月1日時点で5,530人と6か月で208人増加している。

また、毎月1回かわさきFMへの学芸職員の出演のほか、テレビや新聞・雑誌などの取材を積極的に受け広報に努めている。5月に日本各地でオーロラが見られた際には、天文部門のある科学館として、テレビ朝日のサンデーステーションの取材を受けた。

2の魅力を高めるサービスについては、スタッフが適切な案内や接遇を行い、アンケートでも高い評価を受けている。また、学芸職員の来館者や電話でのレファレンス対応や、ショップやカフェなどにおけるサービス向上などにより、魅力の向上を図る。

3の多様な利用者への配慮については、館内はバリアフリー対応となっているほか、英語・中国語・韓国語の館内案内を用意している。また、プラネタリウムにはヒアリンググループを設置しており、受信機の貸し出しも行って聴覚障害者などの聞こえをサポートしている。また、学習投影で聾学校在館された際には、字幕付きでプラネタリウムを上映した。

#### 【質疑応答】

（間瀬委員）プラネタリウムで視覚障害者への対応とあるが、展示で視覚障害者・聴覚障害者への取り組みはあるか。

（高中）展示室内にはないが、点字での展示解説書は存在している。ただ、点字が読めないためうまく活用できていない。

（山岡委員）メディア取材を積極的に受けていると伺った。国立天文台でも取材依頼が多くあり、研究に関する問い合わせなどは天文台が受けたほうが良いが、市民向けのことについては、川崎等をお勧めしている。迷惑でなければ今後も続けていく。

（久保館長）今年は、川崎市の広報番組「LOVEかわさき」で生田緑地のスタンプラリーに関して取り上げられた。また、神奈川県広報番組「カナフルTV」で月をテーマにして相模原と当館にも取材があった。

（眞壁部会長）これをもって、中間報告を了承する。

#### 4 次第の4 報告事項について

##### (1) 第3回専門部会（事業視察）の希望調査について（渡邊）

第3回の専門部会は現地視察と位置付けている。配付の視察の希望調査表の中から視察希望の事業を選び、11月22日までに返信をお願いする。当日は視察後10分～15分程度質問などをうける。なお、委員報酬の支払い対象となる視察は1回限りである。

##### 【質疑応答】

無し

##### (2) その他

川崎市青少年科学館における自然分野の収蔵資料の整理状況とその進め方について（資料3）（高中）

##### 電子台帳（収蔵資料のデータ）の現状

当館の収蔵庫には、概算で6万点とされる博物館資料が保管されており、これらの資料は当館の標本番号が付与されるとともに、電子台帳（エクセルデータ）によって管理されている。

電子台帳は、種子植物、シダ植物等の分類群ごとに存在しており、昆虫はトンボ目、バッタ目等の目レベルに分け管理されている。本来、電子台帳の標本番号は1から始まり、最後に新規作製標本へ付与した番号が最終番号として記載されているものと思われるが、当館の電子台帳は、ところどころエクセル上の行自体がなく、数字が欠損しており、電子台帳上、該当の番号が未登録であるのか欠番であるのか状態が不明のものがある。

現在、電子台帳に改めて欠損している行を追加し、該当の行を未登録あるいは欠番と表記することで、電子台帳上、標本番号が1から最終番号まで連番で存在する状態へと電子台帳の整理を進めている。

##### 資料整理の課題

###### ・未登録資料の登録

昆虫標本の電子台帳は欠損した番号が多く、その数はコウチュウ目で4,530点、カメムシ目で3,576点など、計12,000点にも及び、標本番号が付与されているものの電子台帳に未登録の資料が存在している。このため、特に欠損した番号が多いコウチュウ目について、収蔵庫の標本を見直し、未登録資料が見つかり次第、登録する作業を行っており、昨年度は1,000点の未登録資料を登録している。

なお、昨年度登録した標本は、すでに種同定がなされたものが多く、登録作業が比較的容易であったが、現在登録を進めている標本については、未同定の標本が多いことから、登録作業には相当の時間が必要となっている。

#### ・新規資料の収集・標本作製

未登録資料の登録作業と並行し新規資料を収集するため、野外で新規資料を採集し、標本化を実施している。この作業の中で、特に採集資料の標本化（展翅・展足）には専門的な知識と熟練した技術が、種同定には専門的な知識と観察眼が必要となり、これらの作業には相当の時間を要している。

#### 資料整理・収集の進め方

本来、収蔵庫の既存資料は標本番号の付与とともに台帳（電子台帳）に登録されているものだが、当館の既存資料には未登録の資料があるため、速やかな登録が重要であると考えられる。しかしながら、当館の自然科学班の職員体制は、専門の学芸員である係長職1名、指導主事1名、事務職1名、再任用短時間職員1名、会計年度任用職員1名であり、限られた職員体制で自然分野と科学分野、両分野の博物館事業について対応しているため、未登録資料の登録作業、新規資料の収集・標本作製のための十分な時間がとれず、速やかに作業を進めることが難しい状態にある。

これらの作業を少しでも速やかに進めるためには、作業に当たる学芸員の時間の確保が重要となることから、学芸員による調査研究を当面の間、休止し、未登録資料の登録、新規資料収集の時間を確保することで、優先的に資料の整理・収集を進めていきたい。

#### 【質疑応答】

（常喜委員）：登録には、標本番号と和名学名以外のデータもあるのか？

（高中）：そうである

（常喜委員）：相当な量であるので、できる範囲で協力したいと思う。

（佐藤委員）：データベースのバックアップ体制はどうなっているのか。登録後にアクセスで削除されるなど失われる可能性がある。何か適切なバックアップ体制を取っておけば復元出来、今後同じようなことが起こらないと思う。公開状況は館のウェブなどでも公開しているのか。また、その利用状況や、対面での利用実績として、アマチュアの方なのか本職の方なのか等を教えてほしい。

（高中）：電子台帳はUSBメモリーで保存しており、引き継いだ時点で欠損している場所があった。すでにバックアップをしている。収蔵資料の公開については、ホームページでの独自の公開はしていない。確実に整理できたものだけをS-netなどに載せている。収蔵資料の利用は、特別利用として条例に則り実施しているが、実績は年間で数件利用がある。

（佐藤委員）：種同定には相当な時間と手間がかかる。属・科レベルまで同定した状態で公開して、必要に応じて使いたい人に見てもらい結果を教えていただく方法もある。分からないものでも登録しておく、なにかが館にあるというのはわかる。登録されていなければ科学館にモノがあるということが外からは全くわからない。少し恥ずかしい

ところもあるが、先に登録公開する方法もある。また、度が過ぎるのはよくないが、写真を公開して「おしえてください」と発信すると、詳しい人が世界中から教えてくれるので、本当に手に負えないものはそうする必要もあるかもしれない。

また、調査研究を休止しというのが、研究はどこまでのこと指しているのかわからないが、論文作成や目録作成は手間と時間がかかるが、「調査」における、生田緑地の生物調査や市域の動植物調査、注目すべき外来昆虫等の出現調査などは、かなり継続性が重視されるものなので、できれば完全な休止はせずに規模縮小してでも続けてほしい。

(久保館長)：標本登録について、一旦登録だけ先にしておいて、という博物館は実際にあるのか。

(佐藤委員)：生命の星・地球博物館でも、学芸員が担当分野全てに精通しているわけではないので、分かる範囲までの同定をしている。分類が十分に進んでいないキノコや貝、一部分だけ出てきた化石など「●●類の仲間」などとし、写真を公開しておけば、興味のある方の目に留まる。情報公開することでギブ&テイクになる。

(久保館長)：博物館として写真を公開することで、情報呼びかけることまではしなくとも、ホームページなどを見た人の声が届くのか。

(佐藤委員)：種まで同定しているものは、属・科・目もわかっている。例えば、自分がある何かを調べるときに、科で検索した際に種まで同定しているものと科までしか分かっていないものの両方が出てくる。そこで、興味を持った人の目に留まる。

(久保館長)：調査結果を引き続き少しでも…ということだが、現状、どの事業も中途半端で、収蔵資料の整理が進まない。数年かけてでも状況を明らかにして、展示や教育普及など市民利用につなげていくためにも自然分野については収集保存事業に軸足を置くのが今回の趣旨である。

(佐藤委員)：調査も標本採集すると、手間が多くなる。割り切って写真撮影だけにするなど記録の仕方は色々あるので、とりあえず情報を蓄積する手はあると思う。

(間瀬委員)：相当時間がかかるということだが、ボランティアの協力はできないのか。

(高中)：当館の自然分野には館のボランティアは存在しない。天文には天文サポーターがいるが自然にはサポーターがいない。

(間瀬委員)：自然分野でもボランティアの募集があれば、協力者が出てくるのではないか。同様に天文・科学分野でも収集事業についてボランティアの協力があると進むと思う。

(久保館長)：天文サポーターは当館で登録しているが、自然分野は、NPO法人かわさき自然調査団と協調して進めている。当館で行き届かないところは協力いただくこともできるが、広い範囲では実施できていないのが実態である。

(眞壁部会長)：本日の議題は以上である。全体を通してコメントはあるか。

(久保館長)：資料③の件は、意見があれば別の機会でお聞きしたいが、このような方

針で来年度以降進めたい。

## 5 閉会（渡邊）

眞壁部会長、議事ありがとうございました。また、委員の皆さまも御助言ありがとうございました。

以上を持ちまして、第2回専門部会を閉会いたします。本日はありがとうございました。